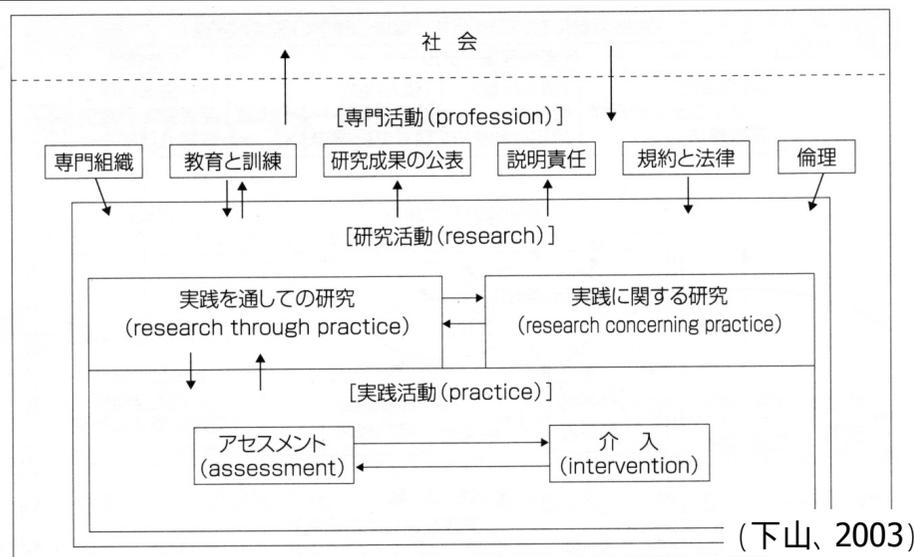


臨床心理学の構造と実践

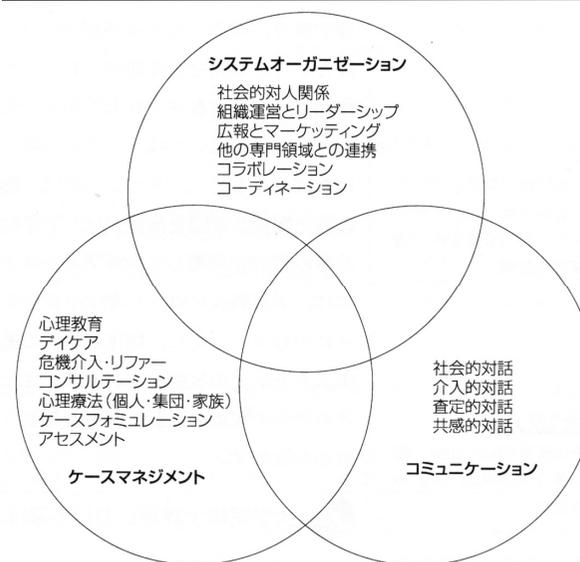
臨床心理学の実践活動

- アセスメントと介入の繰り返し(仮説生成 - 検証過程)から成り立つ。
- 問題に関する仮説を生成するために照合枠として参照するのが、臨床心理学、異常心理学、発達臨床心理学、社会心理学など様々な心理学の理論、知識、技法や、精神分析療法、クライエント中心療法、分析心理学、行動療法、認知行動療法、家族療法など心理療法の各学派の理論モデルになる。
- 実際の実践活動では、さまざまな理論モデルの考え方や技法を統合的に利用して介入する(自分ができない場合はリファーする)ことが必要になる。

臨床心理学の全体構造



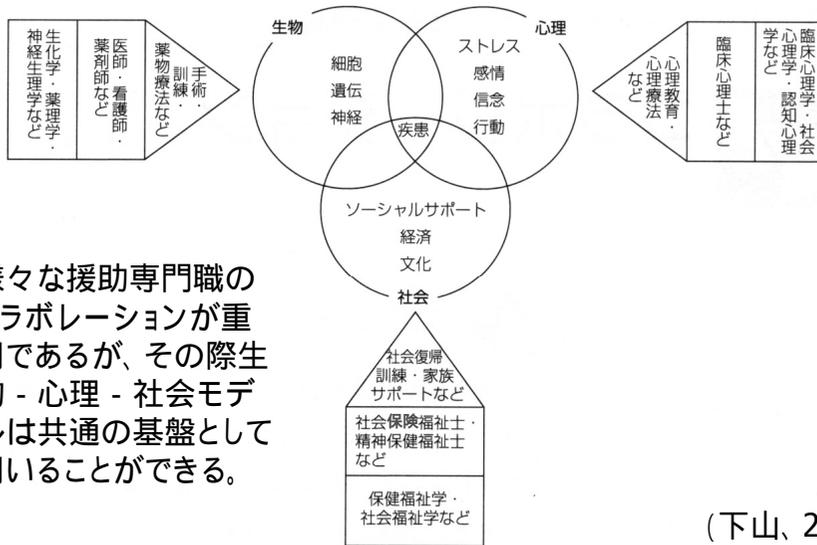
実践活動の3次元



- 臨床心理学の実践活動を全体として理解するために、実践活動を3次元の構造としてみるのが役に立つ。

(下山, 2003)

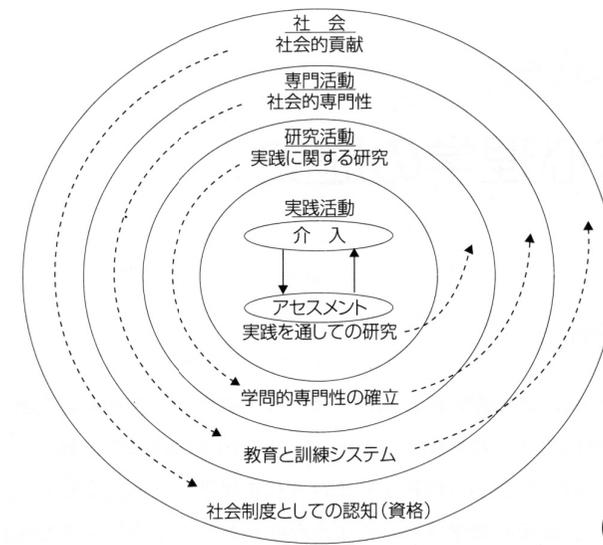
生物 - 心理 - 社会モデルとコラボレーション



■様々な援助専門職のコラボレーションが重用であるが、その際生物 - 心理 - 社会モデルは共通の基盤として用いることができる。

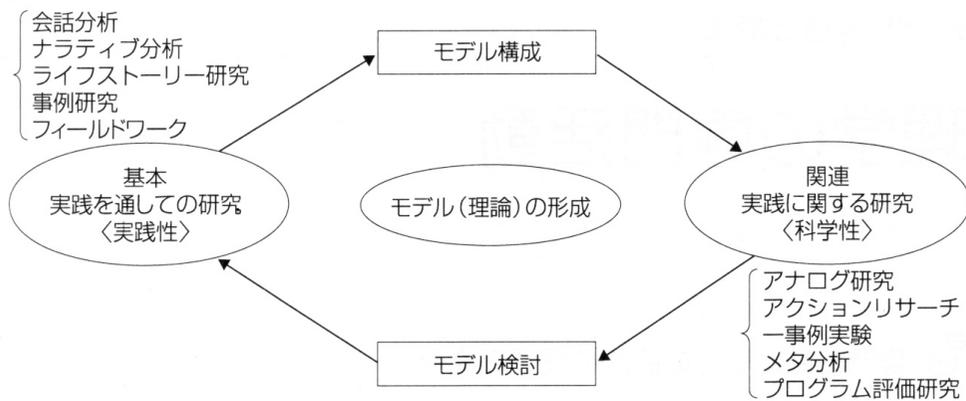
(下山, 2009)

臨床心理学の専門活動



(下山, 2003)

臨床心理学の研究活動



(下山, 2003)

肥満を伴う糖尿病のAさんを例に

- 54歳、男性、会社員
- X-1年、以前に比べて、夜のトイレの回数が増え、喉が渇くようになったことを自覚していた。X年5月の会社の健康診断で、尿糖が3+であることを指摘され、大学病院の糖尿病代謝内科を受診した。
- 身長168cm、体重89kgと明らかな肥満を認め、血液検査でもHbA1c 9.4%と糖尿病であることが確定した。
- 主治医が食事習慣と運動習慣を確認したところ、忙しい仕事のために食事は不規則で、その分を間食がかなり多くなっていること、毎晩缶ビール2~3本を飲んでいること、定期的な運動はしていないことが明らかになった。

チーム医療への導入

- 主治医は食事療法と運動療法の必要性を教育した後、経口血糖降下薬を投与し、糖尿病療養指導士の資格を持つ看護師と、健康運動士の資格を持つ管理栄養士に面接を依頼した。
- 上記依頼に従い、看護師が療養指導(生活の自己管理のための留意点の確認)、管理栄養士が栄養療法(1日1800kcal)と運動療法(毎日1万歩)の指導を行った。
- さらに、院内で行われている糖尿病教室へ参加することを勧め、予定を知らせた。

初期介入の結果と心理士への依頼

- Aさんは知的な理解は良かったが、担当看護師が1ヵ月後に再度面接をした際には、ほとんど生活は変わっておらず、Aさんからは、何とかしたいと思うがつい間食に手が出てしまうこと、万歩計も買ったが平日は歩く時間がなく、休みの日は寝ていることが多いことが語られた。また、糖尿病教室への参加も具体的には計画していないようであった。
- 担当看護師から報告を受けた主治医は、Aさんの生活習慣の変容の難しさを感じたため、ストレスマネジメントの必要性のアセスメントも含めて、心理士に面接を依頼した。

心理士の実践活動

- 初回の面接で、病歴の確認とともに、Aさん自身が自分の状態をどう理解しているか、食事や運動習慣の改善することのどこが難しいと考えているかなどを確認した。
- その結果、担当看護師に語ったように、どんな状況で食べているのかの自覚はあまり無く、仕事も忙しいため運動などもどうしても後回しになるという話が聞かれ、面接の最後の方になって、そもそも急に糖尿病と言われても困るといった言葉も聞かれた。
- そこで、Aさんの困惑に十分共感するとともに、まずは状況を理解することの大切さを説明し、食事・間食を問わず食べた直後に内容を記録するための記録用紙を渡し、いくつかのアンケートにも答えてくるように依頼した。

心理士の研究活動

- これまでにも糖尿病患者の面接を依頼されることが少なくなかったため、2年前、大学から来ていた研修生とともに糖尿病患者の心理行動面の先行研究の結果をまとめ、アセスメント用の質問紙バッテリーを用意した。
- それらの質問紙の結果はデータベース化して介入する際の判断基準にしているが、集計して各変数間の関連などを調べた結果、興味深い知見に気づいている。
- 以前行っていた傾聴中心の心理面接と、上記のデータベースに基づいた介入とでは明らかに手応えが違う印象があるため、いずれ、すぐに積極的に介入を始める条件と、2ヵ月ほど傾聴中心で進める条件を設定して、比較研究が出来ないかと考えている。

心理士の専門活動

- 初回の面接の結果をまとめて主治医にフィードバックするとともに、来月の臨床カンファレンス(CC)でも発表して、関連職種間の情報共有を図ることを考えている。
- 関連学会の地方会で、これまでに担当した印象的なケースの紹介とともに、データを解析した結果を発表し、他の参加者からも意見を聞きたいと考えているが、そのことについても、次回のCCで主治医を始めとしたスタッフの意見を聞きたいと考えている。
- さらに、もう少しじっくり計画を練った後、介入研究を開始できないか、大学時代の指導教員などにも連絡を取って考えたいとも思っているが、なかなかそこまでは…。

参考文献

- 下山晴彦:よくわかる臨床心理学. ミネルバ書房, 2003・2009(改訂新版)

小レポート課題

- 本日中にコースナビに設定しますので、~~切~~ (10日23:59)までに、忘れずに提出して下さい。
- 集計の都合上、添付ファイルでの提出は認めず、コースナビに設定したスペースに、直接入力していただく形になりますので、注意して下さい。